小名浜地区のまちの成り立ち

小名浜地区は、いわき市の東側に位置し、小名浜、泉、江名、鹿島等から成り立っています。

慶長7年(1602)鳥居氏が磐城平に城を造り、いわき地方、あるいは現在のいわき一円の10万石を領地とした中に小名浜は属しました。

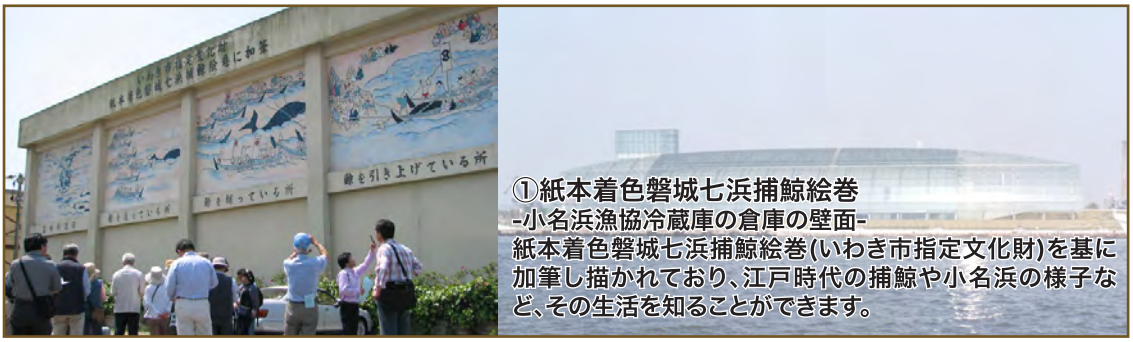
延享4年(1747)に幕府は磐城諸藩の年貢米が小名浜から廻米されているのを重視し幕府領にに組み入れ、小名浜の米野村(現在の古湊)に代官陣屋が置かれました。

江戸時代、小名浜は漁業者、仲買人、船大工、質屋、漁船、酒造、醤油醸造、回船問屋、飲食店、湯屋、宿屋など多岐にわたる職種が集まり、大いに繁栄しました。

石炭の積み出し港や漁港として栄えた港は、昭和2年に重要港湾に指定、その後外国貿易港に指定され、さらに整備は進み、1万トン岸壁、外貿コンテナターミナルが整備され、臨海工業地帯として国際港となりました。

現在は一大重化学工業地帯となっています。さらに「いわき・ら・ら・ミュウ」や「アクアマリンふくしま」がそれぞれ小名浜港の1号、2号ふ頭にオープンし、いわき市の観光拠点となっています。

港町 小名浜 - 小名浜古湊地区「漁業賑わいの建造物」



①紙本着色磐城七浜捕鯨絵巻
-小名浜漁協冷蔵庫の倉庫の壁面-
紙本着色磐城七浜捕鯨絵巻(いわき市指定文化財)を基に加筆し描かれており、江戸時代の捕鯨や小名浜の様子など、その生活を知ることができます。

②番所灯台
昭和3年(1928)5月15日設置・初点灯。当初は綱取埼灯台と呼ばれていましたが、昭和30年(1955)8月に現在の名称変更されました。

③駆逐艦「沢風」のタービン
「沢風」は大正10年(1921)に建造された駆逐艦で、当時最新鋭の駆逐艦であった。戦後「沢風」は漁港の防波堤として海中に埋められました。

④国際港の礎石
小名浜湾商港実現めざした、大陳情隊「白襷隊」の功績を称えた記念塔です。小名浜港は昭和31年(1956)国際貿易港の指定を受けています。

⑤小名浜代官陣屋跡
小名浜は幕府上納米の積出港の役割を担い、延享4年(1747)には小名浜の米野村(現在の古湊)に、幕府の直轄地として代官所が置かれました。

⑥米野通りの「うだつ」ー古湊地区
江戸～明治にかけ米野村と呼ばれ、小名浜の発祥の地です。町家の妻壁から張り出した袖壁を「うだつ」と言い、延焼を防ぐ役目を果たしました。

⑦㈱酢屋商店(野崎邸)
江戸時代、湯長谷藩の藩主等が宿泊し、米の積み出しを行い、明治以降は網元や廻船問屋を営んできました。

⑧緑屋商店(志賀邸)
江戸時代の万延元年(1860)味噌・醤油の醸造元として創業。現在の建物は昭和17年(1942)当時最新の近代建築として建てられました。

⑨鰹船模型-いわき市指定有形民俗文化財
明治43年(1910)に当時の船大工小野久七氏が作成。帆をかかげた荷船の模型が多い中、このような鰹船の例は全国的にも稀少と言われています。

⑩沈船防波堤・駆逐艦汐風跡
昭和23年(1948)年8月に駆逐艦「汐風」を小名浜港の防波堤の一部に充てました。色の違うタイルの部分が艦尾にあたります。